

「平成20年度 千葉県ユース(U-15)サッカー選手権第6ブロック予選」

1次リーグ	5月18日	0 - 3	千葉日大一中	
	24日	1 - 1	三田中	
	31日	1 - 0	八千代松蔭中	Aブロック2位で決勝トーナメントへ
トーナメント	6月14日	1 - 0	宮本中	
	15日	3 - 2	船橋中	第6ブロック代表!

本当に苦しみ抜いた1次リーグでした。他力本願で決勝トーナメントに進出できたのは、ラッキーの一言です。選手達は、甘さや過信があった訳ではなく懸命に闘ったのですが、どうにもなりません。人数的にもぎりぎりの3年生が、学校行事や怪我でほとんど揃わず頼りの2年生も同様に、クラブユース選手権とは全く別のチームでした。ただ、最大の要因はクラブユース選手権にありました。

各上のチームとの対戦が多いクラブユース選手権において、よい経験ができそこそこの成績を残したのですが、その闘い方は、結果をもとめて守備をかためてスピードのあるトップの個人にボールをあずけて、カウンター勝負という形ができていってしまったのです。それぞれの選手の特徴を生かしてチームとして闘うということは、悪い事ではありません。ただ、知らず知らずのうちに、トップの個人にみんなが頼りすぎてしまっていたのでしょ。ここ数ヶ月のチームの得点を整理したところ、そのトップの個人が一人でチームの75%の得点をあげていました。その彼が、腰骨剥離骨折で離脱、修正するにもメンバー揃わずで1次リーグ敗退を覚悟しました。

本当にラッキーでした。決勝トーナメントまでの2週間、選手はとても練習に集中しました。サポートとフォローを合言葉に、一つのボールに対して全員がかかわろう、ボールと人を動かそう・動こうが、テーマでした。さぼることなく、あまえることなくハードワークしました。

決勝トーナメント、トップの個人はベンチで声をからしていました。

第1戦は、点差以上に安定していました。ボールポゼッションもよく、危なげなかったです。代表決定戦、身体が重く本来の動きがありません。先制するも、PKをきっかけにあっというまに逆転されます。前半は防戦一方で、がたがたとくずれそうでしたがよく耐えました。1 - 2で前半を終われたことが成長をうらずけているとともに、この試合のポイントでした。

そして、後半の2得点は練習の成果がでた、みごとなゴールでした。また一歩前進できました。

苦しみ、悩んだからこそ、決勝トーナメントは楽しかったと思います。

試合終了時の「やった~!」の声は、フィールド・ベンチ、みんなそろっていましたよ!

もっともっと楽しむ為に、努力しましょう。

充実した夏を過ごして、秋には県大会で思いっきり楽しむぞ!!

2008年 6月17日 大川